

お願い
適用機種を必ず確認し、取付け間違いのないようにお願いします。

三菱電機エアコン
別売部品
ドレンアップメカ

形名

PAC-KM26DM

取付説明書

安全のために必ず守ること

- ご使用の前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ取付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。



警告

誤った取扱いをしたとき、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。



注意

誤った取扱いをしたとき、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。

- ・お読みになったあとは、お使いになる方に必ず本書をお渡しください。
- ・お使いになる方は、いつでも見られる所に大切に保管し、移設・修理の時は、工事をされる方にお渡しください。また、お使いになる方が変わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しください。



警告

取付けは、販売店または専門業者に依頼してください。

- ご自分で取付工事をされ不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付工事は、この取付説明書に従って確実に行ってください。

- 取付けに不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。

- 接続や固定が不完全な場合は、発熱や火災等の原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。

- 電気回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。

空気清浄機、加湿器、暖房用電気ヒーター等の別売品は必ず、当社規定の製品を使用してください。

- また、取付けは専門の業者に依頼してください。ご自分で取付けられ、不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

電気部品に水(洗浄水等)をかけない。

- 電気部品に水がかかると感電、発煙、発火の原因になります。

改修は絶対にしないでください。また、修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。

- 修理に不備があると、水漏れや感電、火災等の原因になります。

取付けをする前に

注意

食品・動植物・精密機器・美術品の保存等特殊用途には使用しないでください。

- 食品の品質低下等の原因になります。

特殊環境には、使用しないでください。

- 油・蒸気・硫化ガスなどの多い場所で使用しますと性能を著しく低下させたり、部品が破損することがあります。

病院、通信事業所などに据付けされる場合は、ノイズに対する備えを十分に行って施工してください。

- インバーター機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤動作や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音などの弊害の原因になります。

濡れて困るものの上にユニットを据付けしないでください。

- 湿度が80%を超える場合やドレン出口が詰まっている場合は、室内ユニットからも露が落ちる場合もあります。また、暖房時には室外ユニットよりドレンが垂れますので必要に応じ室外ユニットも集中排水工事をしてください。

取付け(移設)・電気工事をする前に

注意

電気配線は張力がかからないように配線工事をしてください。

- 断線したり、発熱や火災の原因になります。

梱包材の処理は確実に行ってください。

製品の運搬には、十分注意してください。

- 20kg以上の製品の運搬は、1人で行わないでください。
- 製品によってはPPバンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。
- 熱交換器フィン表面や部品端面で切傷する場合がありますので、素手で触れないように注意してください。
- 包装用のポリフクロで子供が遊ばないように、破いてから破棄してください。窒息事故等の原因になります。

試運転する前に

⚠ 注意

濡れた手でスイッチを操作しないでください。

- 感電の原因になります。

パネルやガードをはずしたまま運転しないでください。

- 機器や回転物、高温部、高電圧に触れると巻き込まれたり、火傷や感電の原因になります。

エアフィルターをはずしたまま運転しないでください。

- 内部にゴミが詰まり、故障の原因になります。

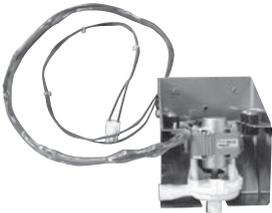
運転停止後、すぐに電源を切らないでください。

- 必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になります。

形名、適用機種

GE-P1080・1680・2100M-E形
 GE-P1080・1680・2100M-G形
 GE-P1080・1680・2100MG形

付属部品の確認 本別売部品には、この取付説明書以外に、下記の部品が入っていますのでご確認ください。

部 品	①ドレンポンプ	②ドレンソケット組立	③結束バンド
形 状			
数 量	1	1	3

部 品	④ケーブルクリップ	⑤CHTネジ(5×25)	⑥断熱パイプカバー
形 状			
数 量	1	3	1

1 ドレンポンプの取付け

ドレンポンプの取付けは室内ユニットの据付け前に行ってください。

[室内ユニット本体の準備]

1. 図1で示す制御箱カバー（ネジ2本）、制御箱（ネジ4本）を取外します。

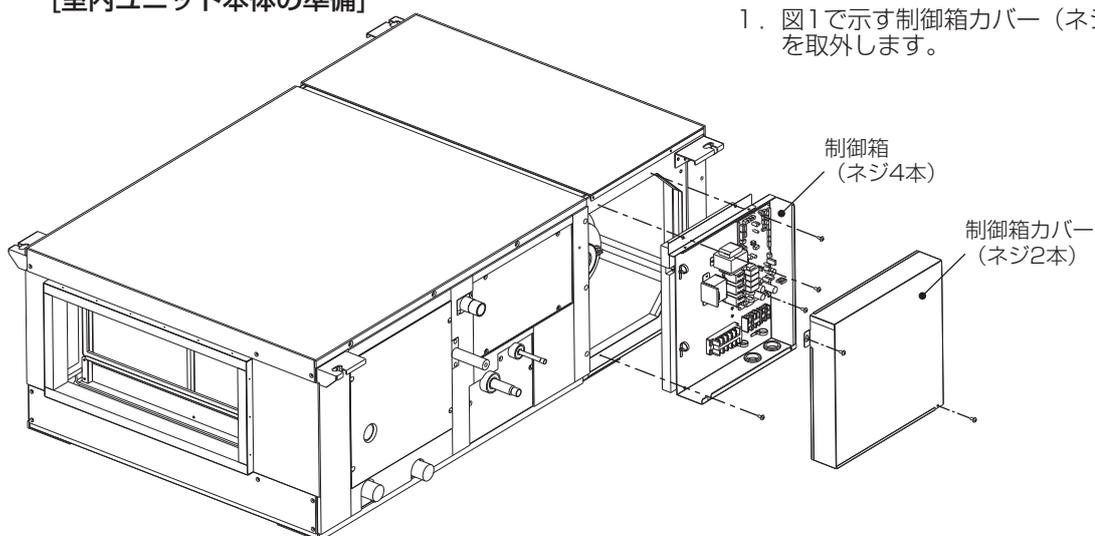


図1

2. 図2で示す配線カバーを取外します。固定ネジ2本をゆるめ、カバーをずらして引抜きます。

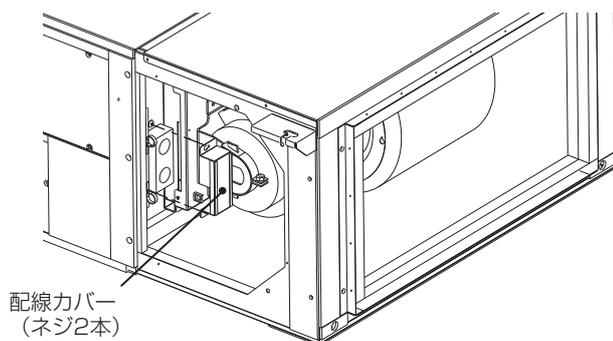


図2

3. 図3で示すカバー1（ネジ4本）、カバー2（ネジ4本）、カバー3（ネジ2本）を取外します。詳細図Aに示すフロートスイッチの配線をケーブルクリップ（2カ所）から外し、ポンプ取付板（ネジ3本）を取外します。

※フロートスイッチに衝撃をあたえないように注意してください。

※カバー3は使用しません。但し固定ネジは使用しますので、失くさないでください。

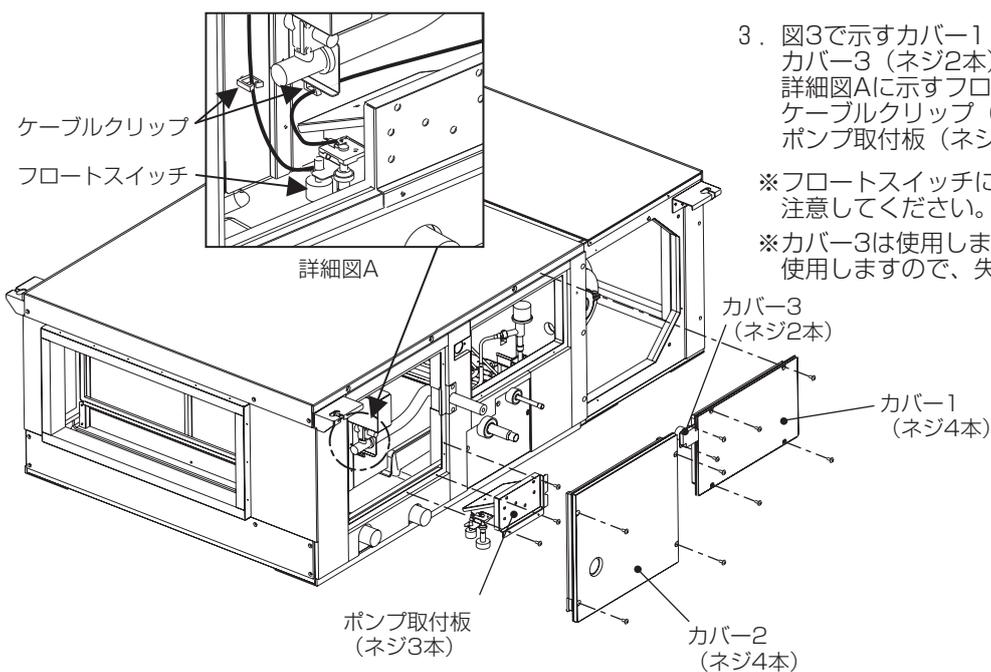


図3

[ドレンポンプの取付け]

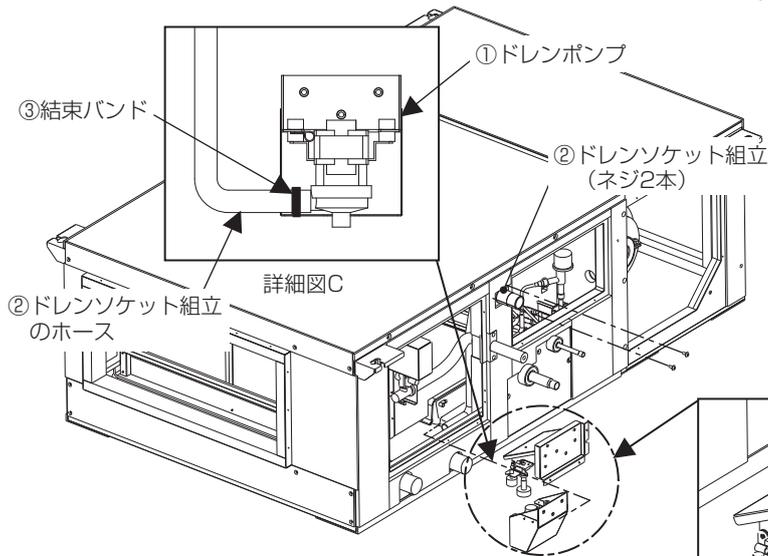
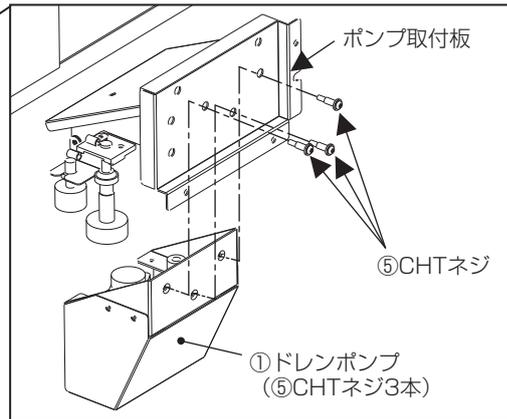
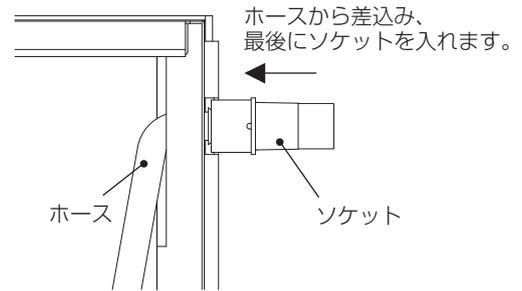


図4

4. 図4で示す②ドレンソケット組立 (ネジ2本) を下図のように取付けます。カバー3を固定していたネジを使用してください。



詳細図B

詳細図Bで示す①ドレンポンプ (⑤CHTネジ3本) をポンプ取付板に取付けます。

詳細図Cに示すように、②ドレンソケット組立のホースを①ドレンポンプ吐出口に奥まで差込み、ホースのマーキング位置に③結束バンドで固定します。

ポンプ取付板を本体に元どおり取付け、フロートスイッチの配線を元の位置で固定してください。取付け時、フロートスイッチに衝撃をあたえないように注意してください。

(図3, 詳細図A参照)

このとき、ホースにねじれ、折れ曲がりがないか確認してください。

5. 図5のとおり配線してください。
配線時、ガス管に配線が触れないように固定してください。
(図はP1080形の場合を示します)

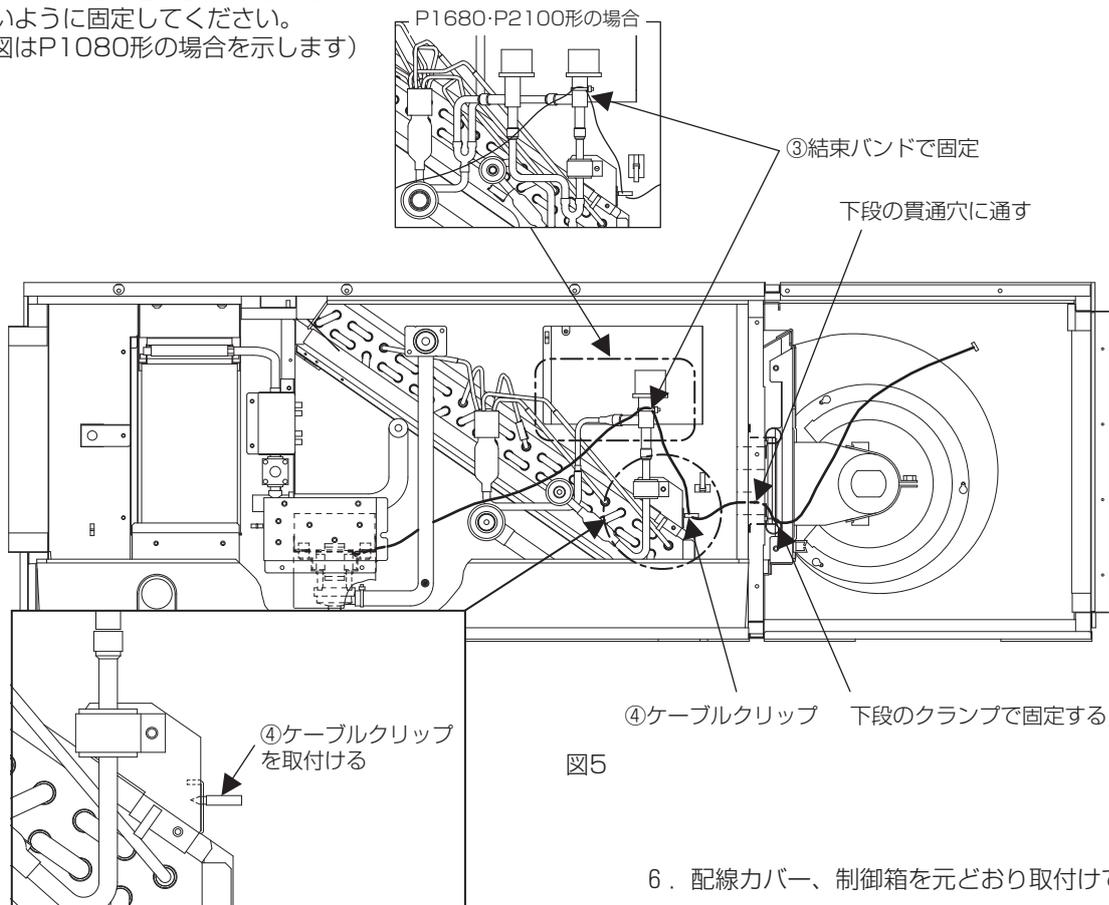


図5

詳細図D

6. 配線カバー、制御箱を元どおり取付けてください。

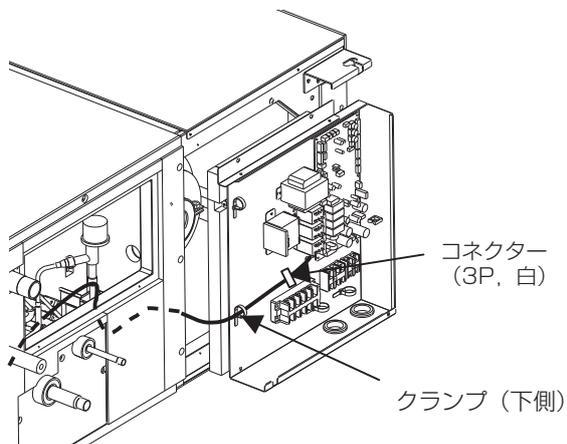


図6

7. 図6. で示すように、ドレンポンプの配線を制御箱のクランプで固定します。
ドレンポンプのリード線 (コネクタ (3P, 白)) と制御箱のコネクタ (3P, 白) を接続します。

8. 制御箱カバー、カバー1、カバー2、を元どおり取付けます。

2 ドレン配管工事

ドレン配管の施工時は以下に示す事柄を必ず守ってください。

- ドレン配管は室外側（排水側）が下り勾配（1/100以上）となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管の横引きは20m（高低差は含みません）以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。
エア抜き管は絶対につけないでください。ドレンが吹出場合があります。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管VP-25（外径φ32）を使用してください。
- 必ず付属のドレンホースを使用し、室内ユニットドレン口と現地配管の距離は図2に従い、工事を行ってください。
- ドレンホースに無理な引張・圧縮荷重がかからないようにしてください。
- 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
- ドレンホースの接合部は日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用し、接合および止水してください。また、差込部が抜けかないよう付属の結束バンドにて固定してください。
- 集合配管の場合、図3のように本体ドレン出口より10cm低い位置に集合配管がくるようにしてください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。
注) ・ドレンホースを曲げて使用しないでください。
・ドレン配管スペースが横方向に取れない場合は、軟質塩ビカフス（現地手配）等による接続をお勧めします。
・天井内が高温多湿雰囲気（露点温度26℃以上）で長時間運転されますと、ドレンホース部に結露する場合がありますので、そのような条件で使用する可能性がある場合は断熱材を貼付けるなどの処置をしてください。
- 水タレが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は、必ず市販の断熱材（発泡ポリエチレン比重0.03）を巻いてください。
注) ・断熱材の厚さは、配管のサイズにより選定すること。
・最上階または高温多湿の条件下で使用する場合は、上記の厚さ以上にする必要があります。
・客先指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- 施工後、ドレンが排出されていることを、ユニットドレン口可視化部およびドレン配管最終出口部で確認してください。

作業手順 (基本例)

- 本体付属のドレンホースを本体ドレン口に取付け、ドレン口のライン（先端から25mm）まで差し込み（折れ・詰まりが起こらないように45°曲げ以下で使用してください）
（接着剤にて接着し、本体付属の結束バンド（小）で締付け）
- 現地手配のドレン配管（塩ビパイプ、VP-25）を取付け
（接着剤にて接着し、結束バンド（小）で締付け）
- 断熱施工（塩ビパイプ、VP-25およびソケット（エルボ含））
- 排水性確認（次頁参照）
- 付属の⑥断熱パイプカバーにて、本体ドレン口部を断熱し、付属の結束バンド（大）で締付け
※本体付属の断熱パイプカバーは使用しません。

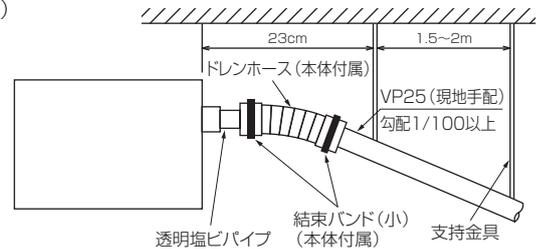


図1

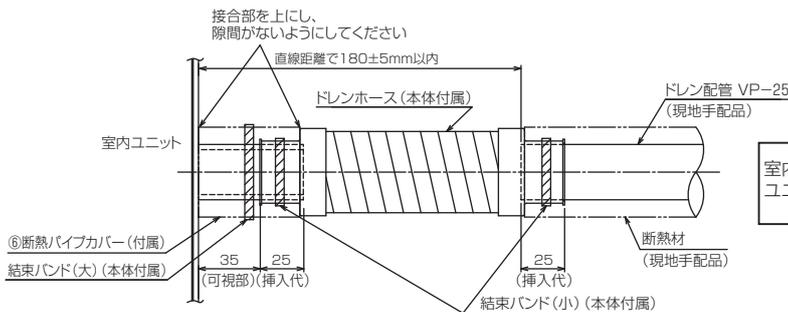


図2

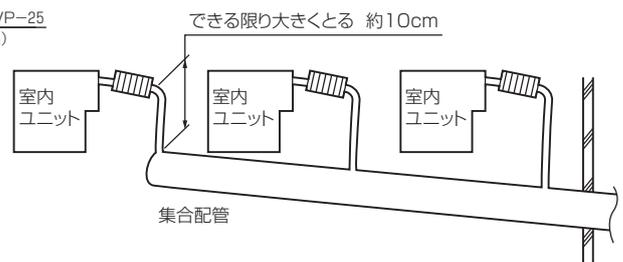
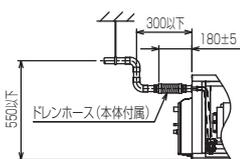


図3

ドレンアップする場合



上図範囲内で本体付属のドレンホースを使用してドレン编程の処理をしてください。

△注意

ドレン配管は、確実に排水するよう配管し、結露が生じないように保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

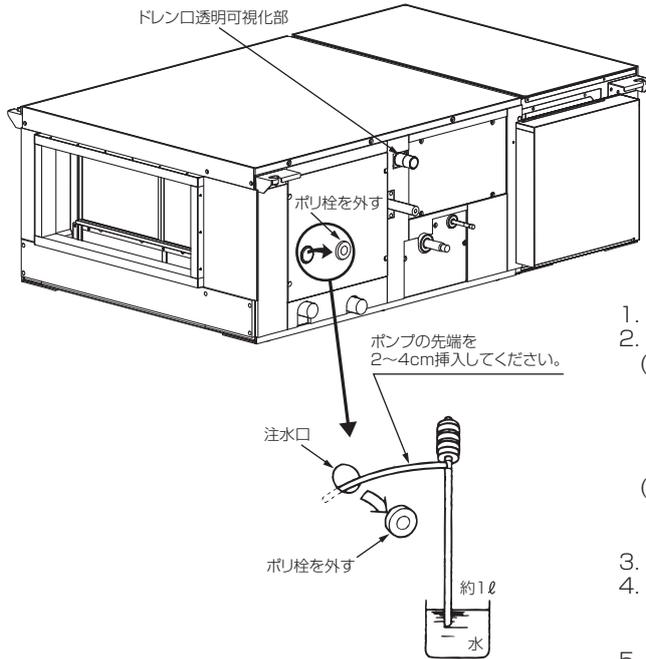
△注意

ドレンホース接続時に使用する接着剤は、必ず日本水道協会規格品の硬質塩化ビニール管用接着剤を使用してください。それ以外を使用すると、水漏れし、家財等を濡らす原因になります。

3 ドレン排水確認

ドレン排水が確実に行われること、配管接続部から水漏れのないことを確認してください。

(挿入が不完全ですと注水が
枠外に流出します。)



1. ポリ栓を外す
2. ドレンパンに約1リットル注水(直接ドレンポンプに水を掛けない)
(注1)上記水量を注水しても排水確認ができない場合は逆勾配に吊り下げられている可能性があります。水準器等を使用して本体が正常(水平)に設置されているか確認してください。
また、必要以上の水を注水するとドレンポンプが水没し故障の原因になります。
(注2)水中ポンプなどを使用して、注水される場合は、注水量が0.4 ℓ/min以下になるようバルブ等で調整してください。注水量が多いと室内ユニットからの水漏れやドレンポンプの故障の原因になります。
3. ユニット試運転(冷房):電気工事が完了している場合※
4. ドレン口透明可視化部およびドレン配管の最終出口部でドレン排水を確認
(注)ドレン口可視化部を断熱材で覆う前に光を当てるなどしてドレンが排出されていることを確認してください。
5. 試運転(応急運転)解除(元電源も忘れずに)
6. ポリ栓取り付け

※電気工事が完了していない場合
・応急運転しながら注水し、確認してください。

応急運転は制御箱内の制御基板上のコネクター(SWE)をON側に差し換え後、電源端子台に单相200Vを通电することにより、ドレンポンプとファンが同時に作動します。



作業終了後は必ず元の状態に戻してください。

ご不明な点がございましたらお客様相談窓口にお問い合わせください。

三菱電機冷熱相談センター

0037-80-2224(フリーボイス)/073-427-2224(携帯電話対応)

FAX(365日・24時間受付)

0037(80)2229(フリーボイス)・073(428)-2229(通常FAX)